

令和5年度入学者一般選抜入学試験問題

(A日程 国際経済学部)

小論文

注意事項

- 1 試験時間は、午後1時から午後2時までである。
- 2 試験開始の合図があるまで、問題冊子を開かないこと。
- 3 この試験では、問題冊子(4ページ)、解答用紙2枚及び下書き用紙1枚を配付する。
- 4 試験開始の合図があつてから、解答用紙に受験番号を必ず記入すること(氏名の記入は不要)。解答用紙は2枚あるので、必ず2枚すべてに記入すること。
- 5 解答は、解答用紙の所定の欄に横書きで記入すること。所定の解答欄以外に記入した解答は無効である。字数の指定がある問題については数字や句読点は1字と数えること。文字数を記入する必要はない。
- 6 問題冊子及び解答用紙にページの欠落や印刷不鮮明な部分等がある場合は、手をあげて、試験監督者がそばに来てからその旨申し出ること。
- 7 原則として、試験時間中の途中退室は認めない。
ただし、具合が悪くなった場合、トイレに行きたくなった場合等は、手をあげて、試験監督者がそばに来てからその旨申し出ること。
- 8 試験終了の合図があつたら直ちに筆記用具を置くこと。
- 9 試験終了の合図があつて筆記用具を置いたら、机の上に問題冊子と下書き用紙を重ねて置き、その上に表にした解答用紙を問1・問2の解答用紙が上になるように重ねて置くこと。
- 10 試験監督者の許可があるまで退室しないこと。

次の文章を読み、問いに答えなさい。

産業革命^{出題者注1)}の直前の時期までに、広範囲に及ぶ変化が生じていた。イギリスは最も大きく転換した国であった。農業に従事する人口の割合は45%まで低下した。イギリスは、ヨーロッパの中で最も急速に都市化が進展した国であった。ロンドンの人口は、1500年に5万人であったが、1600年には20万人、1700年には50万人、そして1800年にはついに100万人に成長した。また、田舎（いなか）で農業以外の仕事をしている人口の割合は、1750年に32%であった。こうした人々の大部分は工業に従事しており、彼らの作った製品は広くヨーロッパに、時には世界中に出荷された。例えば、オックスフォードシャーにあるウィットニーという町の職人は、ハドソン湾会社という企業に毛布を売っていたが、ハドソン湾会社はそれをカナダ原住民との間で毛皮に交換した。北海沿岸の低地帯諸国^{出題者注2)}の経済は同じような発展の形を示していた。オランダはイギリス以上に都市化が進んでおり、またより大規模な形で輸出志向の強い、田舎における工業が発達していた（表1参照）。

表1 1500年時点と1750年時点で比較したセクター別の人口構成（%）

		1500年			1750年		
		都市	田舎の非農業	田舎の農業	都市	田舎の非農業	田舎の農業
転換が最も大きかった国	イギリス	7	18	74	23	32	45
近代化が進んだ国	オランダ	30	14	56	36	22	42
	ベルギー	28	14	58	22	27	51
進展がわずかに見られた国	ドイツ	8	18	73	9	27	64
	フランス	9	18	73	13	26	61
	オーストリア =ハンガリー	5	19	76	7	31	61
	ポーランド	6	19	75	4	36	60
ほとんど変化しなかった国	イタリア	22	16	62	22	19	59
	スペイン	19	16	65	21	17	62

ヨーロッパの残りの地域は、転換はずっと小さいものであった。大陸ヨーロッパの大国では農業に従事する人口の割合はわずかな減少に留まっていた。これに対応する田舎での工業生産の増加や都市化の進展も小さかった。スペインやイタリアでは変化が見られず、人口構成の変化は生じなかった。スペインは特に不幸であった。スペインは16世紀には、南アメリカにおける多大の銀の産出により、最も成功した帝国主義国と見られていた。しかし、銀の輸入により、他のどこにもみられないずっと大きなインフレーションにスペインは見舞われた。その結果、スペインの農業と工業は競争力を失った。スペインにおいて都市人口の割合が不変であるという捉え方は、その背後で起こっている大きな変化を隠してしまっている。すなわち、アメリカ大陸からの戦利品でマドリードの人口が拡大する一方で、その他の古い産業都市の人口は急減していた。グロー

バル化は北西ヨーロッパの発展を刺激したが、南ヨーロッパの発展をむしろ抑制した。

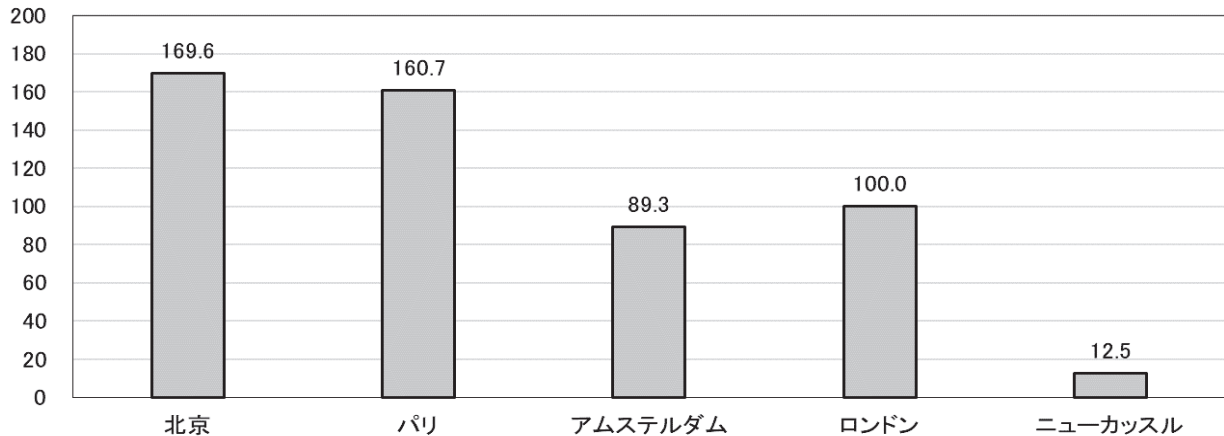
グローバル経済における成功が経済発展に与える主要な意義としては以下のようなことが指摘できる。

第一に、都市化と田舎における工業生産の進展は、労働に対する需要を増加させ、労働市場の需給を引き締まった状態にし高賃金につながった。生活水準は、18世紀の前半、ロンドンとアムステルダムで、ウィーン、デリー、北京といった世界の他の都市よりも高かった。

第二に、都市の成長と高賃金経済は、食糧生産と労働力の両面で農業に対する要請を強めた。その結果、イギリスとオランダの両方で農業革命が生じることとなった。農場労働者一人当たりの農業生産は、両国ともそれまでで最も高かった時期と比べ1750年には約50%増加し、ヨーロッパでもっとも高い水準に到達した。

第三に、都市における需要の成長は、イギリスとオランダでエネルギー革命ももたらした。中世において、木炭と薪（まき）が都市で燃やされる主要な燃料であった。都市が成長するにしたがい、薪の価格は跳ね上がり、代替りの燃料が開発された。オランダでは代替品は泥炭（でいたん）であった。イギリスでは石炭が普及した。石炭はイングランド^{出題者注3)}北東部のダーラムとノーサンバーランドで採掘され、船で海岸線を下りロンドンに運ばれた。イギリスは、18世紀に大規模な石炭採掘産業を有する世界で唯一の国であった。その結果、イギリスは世界で最も安いエネルギーを入手することが可能となった（図1）。

図1 1700年代初期のエネルギー価格指数（ロンドン＝100）



注1) ここでは利用しているエネルギー源の構成にかかわらず、同じ熱量を得るために必要とされるエネルギーの価格を比較しており、イギリスの値を100とした指数で表示している。

注2) ニューカッスルはイングランド北東部の石炭を採掘する炭鉱に近い都市

第四に、高賃金経済は、高い水準の識字能力、計算能力及び技能一般を有する社会を生み出した。表2は、自分の名前を書く能力がある大人の人口が全ての大人の人口に占める割合で測った識字率の推定を1500年時点と1800年時点で示したものである。ヨーロッパの全ての地域で識字率は上昇している。しかし、伸び率は北西ヨーロッパが最大である。しばしばその理由として挙げられる宗教改革ではこの上昇は説明できない。なぜなら、識字率はオランダ、イギリス同様、北東フランス、ベルギー、ライン川流域で高くなっているが、これらはいずれもプロテスタントではなくカトリックの地域である。識字率の上昇は、高賃金と商業経済の進展によるものであった。商業と工業の拡大は、教育の経済的価値を高め、その結果教育への需要を増大させた。同時に、高賃金経済は、両親が子供を学校に通わせるために支払うお金の余裕を生み出した。

表2 大人の識字率 (%)

	1500年	1800年
イギリス	6	53
オランダ	10	68
ベルギー	10	49
ドイツ	6	35
フランス	7	37
オーストリア＝ ハンガリー	6	21
ポーランド	6	21
イタリア	9	22
スペイン	9	20

出典：Allen, Robert C., (2011), Global Economic History, Oxford University Press. より、一部改変して掲載。

Copyright ©2011 Oxford University Press. Reproduced with permission of the Licensor through PLSclear.

出題者注1) 「産業革命」とは、1760年頃から1830年頃(1860年頃とする見方もある。)までの期間、イギリスにおいて数多くの技術革新に基づく各種機械や蒸気機関を活用する形で工業化が進展し、経済社会に大きな影響と変化を与えたことを指す。

出題者注2) 「低地の国々」を意味するネーデルラントを指し、現在のベルギー、オランダ、ルクセンブルクのベネルクス三国に相当する。

出題者注3) 原文でEnglandとしているうち、国としてのイギリスの一部のウェールズ地方、スコットランド地方と同じく地方の名称としてイングランド地方を指す。原文で国を指してEnglandと記している箇所もあるが、これについてはイギリスと訳している。

問1 表1について、以下の問に答えなさい。

- 1) 1500年時点と1750年時点と比較した場合、ベルギー、ポーランド、イタリアを除くすべての国に共通する変化が認められる。都市の人口の割合、田舎の非農業の人口の割合、田舎の農業の人口の割合の増減に着目して、共通する変化を100字以内で説明しなさい。
- 2) イギリスとオランダを1500年時点と1750年時点で比較して、都市の人口の割合、田舎の非農業の人口の割合、田舎の農業の人口の割合のそれぞれについて変化率（表中の1750年の値を1500年の値で割って何%増減したか）を計算し、変化率の絶対値が一番大きいのはどの国のどの人口の割合か、また変化率の絶対値が一番小さいのはどの国のどの人口の割合か、全ての変化率の値を示したうえで、答えなさい。

問2 図1と表1に関連して、以下の問に答えなさい。

- 1) イギリス国内のロンドンとニューカッスルを比較して、エネルギー価格が、ロンドンがニューカッスルの何倍高いかを計算しなさい。本文と図1の注2を参照して、こうした差が生まれる原因として考えられるものを一つ挙げなさい。
- 2) 図1を見ると、パリはロンドンよりも1700年時点でエネルギー価格が60.7%高いことがわかる。一方、表1で1500年から1750年間のイギリスの都市の人口の割合の変化が、数値の増減でも変化率でも、フランスに比べ大きいことがわかる。これを踏まえて、都市の人口の割合が増えると従来使われていたエネルギー源から新しいエネルギー源に転換が起こり、エネルギー価格が低下するというメカニズムを120字以内で説明しなさい。

問3 表1と表2に関連して、以下の問に答えなさい。

イギリス、オランダ、ベルギー、ドイツ、フランスの5か国について、表1から1750年時点の都市の人口の割合が高い順にオランダ、イギリス、ベルギー、フランス、ドイツとなっていることがわかる。同様に、表2から1800年時点の大人の識字率の高さがこの5か国で同じ順番であることがわかる。

そこで、都市の人口の割合の高さは一国内の商業や工業の発展の度合いを示す指標であるということを仮定して、本文の大人の識字率についての記述と照らし合わせて、都市の人口の割合と大人の識字率の5か国の順番が同じとなる理由について、230字以内で論じなさい。